

平成30年度 こどもの木かげ・玉成幼稚園 自己評価・学校関係者評価

《こどもの木かげ・玉成幼稚園の自己評価》

1. 基本理念・保育方針

■こどもの木かげ 2002 基本理念

『汝らは、地の塩、世の光である』(マタイによる福音書5章第13節—14節)

キリスト教の愛の精神を基とし、幼な子が、自ら生きる力を高め、豊かな個性を育むことをめざしています。
こどもの木かげ(玉成幼稚園・野のはな空のとり保育園)では、0歳から就学まで一貫した保育方針にもとづき子どもの育ちに取り組んでいます。

■玉成幼稚園 保育方針

個の生活と集団での生活がバランスよく営まれるように配慮しながら、友だちや周りの人たちに受け入れられていることを意識し、お友だちとの相互交渉を通じて「ともに生きる喜び」を身につけられるように育んでいきます。

保育は、「子どもの心に絵を描かせる」時間と場所の提供であり、子どもの傍らには子どもを励ます保育者がいて、イメージや想像力をたっぷりと与えてあげられる保育の時間と、子どもが自分であそび、自分で学ぶことができるように工夫された保育の流れをつくっていきます。

こんな子どもに育ってほしい・・・アルウィン学園のめざす子ども像

- ①生きる力の礎である「自らの力で探求ししながら人とのかかわりをととして生きる喜びや自己実現が達成」できるように
- ②「一人一人が違ってよい」興味や得意なことを伸ばし個性豊かなになれるように
- ③あそびをととして感性や知的能力・創造性・社会性を体得できるように

2. 活動状況と自己評価

【基本事項】(こどもの木かげ共通)

◆子どもたちが、自らの力でとりくむ姿勢が育ち、友だちとのかかわりを高め、育ち合っているか

子どもたちがあそびや活動に自らとりくめるように、教材をそろえ、場所・時間を提供することで、意欲をもってとりくめるように保育をおこなってきた。日々の生活を友だちと一緒に過ごすことで、互いの気持ちを伝えあったり、相手の良さを認めていながら育ち合っている。

◆子どもたちに豊かな感性が育つようとりくみや自発的なあそびをととりくめるように保育をおこなってきたか

彩画(クレヨン・にじみ絵)をととして、色の美しさに気づいたり、子どもたちのイメージで表現することをたのしめるように、援助してきた。子どもが主体であることを大切にし、一人ひとりが興味・関心をもったことに取りくめるよに保育をおこなってきた。

【重点的に取り組む事項】

◆幼稚園教育要領と園のコンセプト(基本理念・保育方針)の検証・学びを深める

- ・幼稚園教育要領が改訂されたので、その内容と幼稚園のとりくもうとしている保育を検証し、保育の質を高めていく。

改訂された幼稚園教育要領については、園内研修を設定し、講師から改訂されたポイントと具体的に内容を聞き、学ぶことができた。子どもたちが主体的に取りくめるように環境を整えていくこと、日常生活やあそびから幼児期に育ってほしい姿など、園の保育の考え方を再認識する場となった。

◆キャリアパス制度に基づく職位・職務内容に応じた仕事の遂行を徹底する

- ・職位に応じた職務内容の周知徹底を図る
- ・それぞれの職員の役割を知り、自分の役割を理解して業務遂行を図る

年度当初に、キャリアパス制度に基づく職位や職務内容について確認をし、スタートした。それぞれの職員が自分の果たす役割を把握し、業務を遂行しようと努力はしてきたが、その役割の内容にさらに意識を向けて、一人ひとりの力が発揮できるようにしていきたい。

◆保育内容の充実を図る

- ・特に「表現活動」に関する保育内容を意識してとりくむ(描画活動・音楽表現・身体運動のとりくみ)
- ・各年齢に応じた「食育」のあり方を再検討し、継続してとりくんでいく

描画活動は、園の考え方や描画について再度学ぶ機会をもつことで、再確認することができた。また、学年ごとに子どもたちの作品をもちよりクレヨンの色や数等を見直し、より子どもたちの表現活動が豊かになるように検討してきた。食育に関しては例年の活動計画に沿って実施した。

3. 今後の課題、取り組んでいきたいこと

- 1 園の基本理念・保育方針に基づく保育の実践につなげるために、内部研修を強化していく。また経験年数に応じた研修のあり方を再検討し、実際の保育につながるような研修を積み重ねていく。

学年でのふりかえりを丁寧におこなうことを継続し、保育を高めていく。そこから、課題や検討事項を掘り起こし、園の基本理念や保育方針に基づいて作成された「きほんのキ」（保育ハンドブック）を常に確認しながら、保育をすすめることを徹底していく。

- 3 保護者に対して、各クラス懇談会、個人面談、保育参観について学年別に内容を精査し、年間をとおして計画的に支援していく。園が主催するグループセッションや個々の子どもに対する保育について、学年別に内容を精査しすすめていく。

子どもに対する個別援助を確実にこなうために、ケースカンファレンスを継続的にこなうことを徹底していく。カンファレンスは、経過観察として実施していくことと、日常の振り返り（学年ミーティング）で話題になった気になる子ども、リアルタイムでケースカンファレンスをおこなっていけるようにしていく。

【運営委員（学校関係者評価）の評価】

1 当年度の活動状況について

昨年に引き続き、基本方針を職員全員が共有し運営計画を理解することで、園としての一体感を持たせるように努力している。学年会議、リーダー会議、短時間クラスと長時間クラスの連携のための話し合い等を継続して行うことで、クラス担任だけではなく園全体で子どもの成長にかかわる取りくみが行われている。特に大切にしているのはケースカンファレンスであり、更に上を目指していきたいと自己評価をしている。

職員の教育にも力を入れている。中堅職員による新任職員のメンタリングを行い、研修によるインプットだけではなく、保育現場での小さな気づきや疑問を早く解決して、自信をもって保育にあたることができるようにしている。こどもの木かげは幼保一元のパイオニアのため、職員の皆様は、単独の保育園や幼稚園では得ることができない経験を積んでおられることが推察される。

当年度の活動状況としては、昨年度に課題として掲げた保育方針に沿った行動計画のブラッシュアップと実行、子どもの保育環境を整え、豊かな感性をもち、自立した活動を支援するための取り組みを行い、自己評価にも記載されている成果を上げており、高く評価できる。個別の事例の記載は差し控えるが、運営委員会では、一人ひとりの子どもが、いかに気づきを得て豊かに成長しているか、そして職員がいかにそのことを喜びとしているかを聞いている。

2 今後のとりくみ

こどもの木かげの一体運営、幼保連携、保護者支援について、今後の課題を設定している。職員一人ひとりの深い理解及びモチベーション向上、保護者と同じ目線での子ども支援、地域との共生などを目指し、具体的な行動計画を策定し、実行し、改善するPDCAサイクルを継続して実施していく方針である。

また、園では、子どもの育ちを助けることで教育者自身も教育されるという相乗効果を、体系立てて整理する取り組みを進めている。こどもの木かげの基本理念に沿った独自の保育ハンドブックを作成し、職員全員が確認しあうことで、ともすると閉鎖的になりがちなクラス運営をオープンにし、園全体で子どもの育ちを支援するというコンセプトを実現するものであると、運営委員会としても大いに期待するところである。

3 総合所見

10年ぶりの幼稚園教育要領の改訂がなされたため、園の保育方針との整合性を検証し、特に方針を変えるべきところがないことを確認している。要領の変更点、背景、保育の現場でなすべきことを、内部研修や自発的な研鑽をとおして、職員一人ひとりが理解し、保育の質の向上につなげている。幼稚園教育要領に準拠し幼稚園の保育方針をいかに設定するかは、まさに園の考え方によるが、玉成幼稚園では、キリスト教の愛の精神を基とし、こどもの木かげの基本理念にそって、幼児期の子どもたちの自主性を育むための一貫した方針を貫いている。目指す子ども像をみると、のびのびとした個性豊かな、他者を受け入れ、同じように自分自身も受け入れることができる、そんな子どもが浮かんでくる。

自己評価を真摯に行い、保育の質の向上に努めようとしておられる姿は、玉成幼稚園に通う子どもたちと保護者の方々から、感謝の言葉として聞かれるところである。

今後とも、こどもの木かげ「らしさ」を大切に、子どもたちが安心して過ごせる空間を作っていただきたい。

